

---

U

空和アオ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

U

### 【Zマーク】

N7291M

### 【作者名】

空和アオ

### 【あらすじ】

これはあなたの話でもあるのですよ~。

俺の部屋の片隅には、白い聖域と呼ばれる空間が存在する。

俺はいつもその空間に閉じ籠もり、外界での疲れを紛らわす為に精神集中の儀を執り行っている。

その儀式には幾つかの媒体が必要であり、その媒体の一つに「呼ばれる伝説の書物」が存在する。

今日はその「呼」を使った比較的簡単な儀式を行ってみよう。

まず、様々な魔導書を置いてある本棚から「呼」を取り出す。

この時に間違えてはいけないのが、必ず「呼」であるという事だ。

MやCでは駄目だ。

他の人は知らないが俺の精神には「呼」が一番しつくらぐ。

そして「呼」を手に取つたら、それを持つてすぐ「聖域」に向かえ。

自分の心の聖域は一つしか無いはずだ。

敵に盗られる前に儀式を済ませ。

敵? ああ、気にするな。

とにかく儀式の最中は無防備だ、色々と都合の悪い事もあるだろうが、ゆっくり落ち着いて行えば君なら出来る。

さて、本題の儀式だ。

君は今白い聖域の中心、水鏡の仰座に座っている。

そこで口を開き、心を無にするのだ。

心が無になる事により、この内容をよつと理解出来るようになるだろう。

そして口を開くのだ。

所々魔力の所為か色の付いたページが存在するが、今回ばかり今まで深くこの使用するのは危険と見なして、白黒のページだけにしておこう。

口を曇り無き眼で見定めるのだ。

さて、そろそろだな。

儀式の時間だ。

慣れればそのままでも構わないが、今回ほんと開じる。

来るべ。

ほら、段々と下腹部から下、丹田に気が集まってきてこる。

現代社会の日々における心の汚れを解き放つのだ。

ボトンツ

……。

やればできるではないか。

ん、ちよつと待て、ちよつと戻へないか?

やめる。

やめるんだ。

お前がどれだけの闇を抱えて生きてきたのかは知らないが、それ以上出せば、台座が保たないつ！

ボツトン

ふづー、何とか止まつたな、しかし 。

なんともうづけさだ。

こんなしは初めて見た。

んつ？じか？

しとは貴様が今出した心の闇。

本来人間ごときが抱えていてはいけないものだ。

貴様は今儀式によつてしの体外具現に成功したのだよ。

しかし 。

まさかここまでのことを具現化させるとこ。  
まさかここまでの人間か？

貴様それでも人間か？

…………すまない。

それでは儀式の最後、この浄化を行う。

手順はこうだ。

まず水鏡の台座に映し出された心の闇であることを、その台座に宿る聖なる力で異次元に飛ばす。

なあに、そう怯えなくとも貴様の闇だ、貴様に出来る。

其処にレバーが在るだろ？

そりへ……ちがつ、もうちゅい上のやつ……そりへ、それ。

そうだ。

それを今から私が唱える呪文を復唱しながら捻つてみる。

いくぞ。

エロイムエッサイム……

エロイムエッサイム……

我は求め訴えたり。

出でよ！

水の精霊ウン ディーネ！

力チツ

ジャアアアアアア……

ドプンツ

なにつ！？

ウン ディーネが利かないだと！？

くそつ、異次元に飛ばすどころか反発力が働いてこっちに跳んで來やがる。

仕方ない、アレを使う！  
お前は退いていろ。

グングニルだ！

えつ？スッポン？ちげーよバカ。グングニルだつづーの、…………  
つこいな、お前は退いておいて下さいー。

巨大な心の闇、じよ、覚悟つ！

喰らえつ、グングニルウー！！！

ガショガショガショガショガショガショガショガショガショ。

今だ人間、ウン ディーネをつ！

その時人は、初めて自分の心に素直になれた気がした。

力チツ

ジャアアアアア

ふう、やつたな。

これで儀式は終わりだ。お疲れさん。

肩をポンと叩いて締めようとすると、人に手を扱われた。

「お前わざからうるせーねん！

なに人のトイレに勝手に入つて来てんの？

警察呼びますよ？」

「あつ、いやつ、警察だけはちょっと……」

「はあ？ 何が警察だけはだよクソジジイ。  
大体アナタ誰なんですか？」

「いや……トイレの神様で……。」

「ちよつと聞こえないんですけど?  
何で声ちよつちやくなつてんスか?  
この便器のシ!!」

「あつ、いや、便器のシ!!じゅなべでトイレの神です」

「そんなこたあどうだつていいんだよー。」

「シミのオッサンがやつてる事は犯罪なの、分かる？

オッサン今幾ら持つてんの？」

「いや、お金は無くであります、勘弁して下れ。」

「おひつ、じゃあ跳んでみい

「一九、だ

「跳べって！！！」

「ひいい」

「おー、そのチャリチャリしてんのなに?」

「これは、帰りの電車代です。」

「電車で来たのかよ、…………もしもしー、警察ですかー」

こうして暇を持て余したトイレの神は警察に捕まり、人の平和は護られましたとさ。

もしもアナタの家にも便器のシミが現れた時は、警察を呼ぶか、U

と一緒に流してあげる事をお薦めします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7291m/>

---

U

2010年10月15日23時55分発行